



このコーナーでは、農業をめぐるわかりにくい疑問や解決しにくい問題に、ジャーナリスト土門剛氏が答えます。さて、今回の質問は？

Q：最近、金融ビッグバンという言葉が新聞やテレビに頻繁に出ています。ビッグバンのそもそもの意味は何ですか。それは農業経営者にはどんな影響がありますか。分かりやすく説明して下さい。
A：「日本版ビッグバン」とは、2001年までに、金融業界を取り巻くさまざまな規制を撤廃し、停滞が著しい東京金

ビッグバンとは迅速な制度改革

融市場をニューヨークやロンドン並みに活性化しようという構想です。昨年11月、橋本首相が打ち出し、その準備が急ピッチで進んでいます。「ビッグバン」という言葉は、本来、宇宙の始まりとなった大爆発を意味します。イギリスが1986年に証券制度の改革を行ったとき、複雑に入り組んだ規制をなくすには、ビッグバンのように一気に断行する必要があるとして、この言葉が使われました。

Q：どんなことが変わりますか。

A：私たちは、お金を預けたり、株を買ったり、保険に入ったりしていますが、こうしたサービスを提供しているのは、銀行、信金・信組、郵便局、農協、証券会社、生命保険、損害保険などの金融機関です。例えば、銀行からお金を引き出して、株を買おうとすれば、証券会社に行かなければなりません。ビッグバンが起きると銀行でも株を買うことができるんです。金融機関を業態別に分けていた垣根がなくなるんですよ。

Q：銀行で株を買うことができれば、保険に入ることもできる。そんな時代になるんですね。

A：はい、そうです。そのため、独禁法で禁止されていた持ち株会社が認められることになり、例えば、銀行ですと、証券会社や保険会社を傘下に収めることができるんです。そうなれば、銀行のカウンターに証券コーナーや保険コーナーができるという案配ですね。

Q：農協には、信用・共済の両事業があります。あれと同じことが起きるわけですね。

A：その意味では農協はビッグバンの先行事例かもしれませんね。でも金融ビッグバンは、もつとスケールが大きいんです。それと、あらゆる金融サービスを提供できても、お客さんが満足のゆく金利とサービスがなければ、そんな金融機関はソッポを向かれかねない。例えば自動車保険の保険料も自由化されます。今のように大蔵省が認可する一律の料金でなくなりそうです。そんなことがあらゆる金融サービスで起きるんですね。

Q：外貨を自由に買えるんだということも聞きましたが。

A：金融ビッグバンは来年から一気にやるんですね。その一番バッターが外国為替の自由化です。海外旅行する時に、円をドルやフランに替えるのに銀行へ行きませんか。ビッグバンでは近くのコンビニでも替えるというんですね。ロンドンやニューヨークの銀行にも自由に預金ができることになりました。いま、日本の金利は超低金利。外国の銀行ですと年8%という高利もありますからね。ビッグバンが起きるとそうしたカネは金利の高い方向に向かい始めます。証券会社の手数料も自由化されます。会社の体力によって手数料が変わってきます。すべてが競争になるんです。

Q：競争が激しくなると、潰れる金融機

関も出てきますか。

A：もちろん、競争に敗れた銀行、証券会社、保険会社など淘汰は避けられません。政府は、預金は2001年まで全額保証すると約束していますが、それ以降は銀行が潰れても1000万円までしか保証してくれません。自分の財産をどう運用するかは、自己責任になってしまおうのです。預け先の金融機関が安全かどうかは自分で判断せよということですね。

Q：農業や農協へはどんな影響がありますか。

A：ビッグバンは競争が起きて淘汰選別ですから、金融機関の中でも一番弱いとされる農協は草刈り場になるかもしれませんね。それと金融に火がつけば農業にも影響が出てきますね。そこから農業改革が起るかも知れません。

Q：その辺のことについていざ詳しく教えてください。有り難うございました。

質問・相談をお寄せください

編集部では読者の皆様からの質問・相談を募集しています。質問・相談は、氏名・住所・電話番号を明記の上、手紙かファクシミリでお寄せください（相談者の氏名・住所・電話番号を記事に掲載することはありません）。

宛先：〒169 東京都新宿区高田馬場4-30-19

株式会社農業技術通信社「農業経営者」編集部

Fax.03-3360-2698